

(西暦) 2023 年 06 月 09 日

同種造血幹細胞移植治療後で終末期医療を受けた 20 歳から 40 歳までの血液腫瘍患者 さんの診療情報を用いた臨床研究についてのお知らせ

はじめに

【研究の意義、目的を記載】

終末期の話し合いを行った患者さんは、自身の意向や希望に沿った終末期医療を受けられ QOL が向上するといわれています。そのため、厚生労働省からも 2018 年に「人生最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン」が出され、「延命や蘇生処置」「看取りを含めた療養場所」の選択など「人生の最終段階の治療の目標や過ごし方に関する話し合い」を行うことの重要性が言われています。

しかし、年齢が若いがん患者さんは、様々な理由でそういった終末期の話し合いが難しい場合が多いのが現状です。特に、完治を目指した同種移植治療や、昨今の新規薬剤や新規治療による新しい治療にける期待も影響し終末期の捉え方が不確かな中、決めていくことの困難もあるのではないかと考えています。

これらのことより、まずは、過去 5 年間の若年成人の血液腫瘍患者の終末期医療・ケアの実態を明らかにすることを研究の目的としました。そこで、終末期の話し合いが行えた患者は何が実現でき、そして行えなかった患者に関しては何が要因だったのかを分析したいと考えました。

対象

当院の血液内科にて同種造血幹細胞移植治療を受け、2018 年 1 月から 2023 年 3 月の間で外来や入院で終末期医療やケアを受けた方

【試料・診療情報等の項目】

試料：

診療情報等：

死亡時年齢中央値、診断・再発時・治療中止時の告知の有無、最期に過ごした場所、(自宅希望の場合は) 死亡前 30 日間に自宅で過ごした日数中央値、終末期における緩和ケア介入の有無、死亡前 30 日間の ICU 入室率や救急搬送の有無、死亡前 14 日間に化学療法を受けていた割合、終末期に受ける医療やケアについての話し合いが行われたかどうか、行えた場合は行った時期(死亡〇日前)、死亡 30 日前の輸血の回数

【試料/情報の他の研究機関への提供および提供方法】

本研究で使用される試料・診療情報等は他機関への提供は行いません。

本研究への協力を望まれない患者さんは、その旨、菊田 美穂までご連絡をお願いします。

研究課題名

同種造血幹細胞移植を受けた若年成人がん患者の終末期医療・ケアの実態
-EOL discussion が行えた患者と行えなかった患者の要因分析-

若年成人がん患者(20 歳～40 歳)で当院で同種造血幹細胞移植を受け、2018 年 4 月から 2023 年 4 月までに死亡した患者を対象として、終末期医療やケアに関して診療録より遡って調査する。

個人情報の管理について

- 1) 本研究で取り扱う患者さんの個人情報は、氏名と患者番号のみです。その他の個人情報（住所、電話番号など）は一切取り扱いません。
- 2) 本研究で取り扱う患者さんの診療情報は、個人情報をすべて削除し、第三者にはどなたのものかわからないデータ（匿名化データ）として使用します。
- 3) 患者さんの個人情報と匿名化データを結びつける情報（連結情報）は、本研究の個人情報管理者が研究終了まで厳重に管理し、研究の実施に必要な場合のみに参照します。また、研究終了時に【または倫理委員会に承認された破棄時点で】完全に抹消します。
- 4) なお連結情報は当院内のみで管理し、他の共同研究機関等には一切公開いたしません。

研究期間

病院長承認日～2028年3月31日（予定）

医学上の貢献

本研究により観察の対象となった患者さんが直接受け取ることができる利益はありません。しかし、症例の少ない若年のがん患者の終末期医療やケアの実態を明らかにし、さらに終末期の話し合いができた事例やできなかった事例の要因を分析することで新たな知見が得られ、次の症例に活かせるのではないかと考えられます。

研究実施機関

国家公務員共済組合連合会 浜の町病院【血液内科】

（他に共同研究機関があれば記載のこと）

【当院での研究責任者】 所属 9AB 血液内科病棟 職名 看護師スタッフ 氏名 菊田美穂

【利用する者の範囲】

所属 9AB 血液内科病棟 職名 看護師スタッフ 氏名 敷田真澄

所属 9AB 血液内科病棟 職名 看護師スタッフ 氏名 今村彩

所属 9AB 血液内科病棟 職名 看護師師長 氏名 森美都子

所属 血液内科 職名 医師 氏名 松尾弥生

お問い合わせ先

本研究に関する質問や確認のご依頼は、下記へご連絡下さい。

【菊田美穂 E-メールアドレス:kikuta-m@hamanomachi.jp】

以上